

村田恒夫相談役 主催「武政健夫 ガラス彫刻展」のご案内

会期：2026年4月22日(水)～5月6日(水)@滋賀県立美術館

株式会社村田製作所の秘書課よりご案内いたします。

このたび、村田相談役が所蔵する、世界的に高く評価されているガラス彫刻家「武政 健夫氏」のガラス彫刻作品の展示会を開催いたします。本展示会では、武政氏の作品 25 点に加え、デッサン画も初公開いたします。

いずれも通常は公開されていない貴重な作品です。

繊細かつ卓越した技術が生み出す美しいガラス彫刻の数々を、間近でご覧いただける貴重な機会です。

お時間がございましたら、ぜひお立ち寄りいただけますと幸いです。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

◆◆開催概要◆◆

■日時	2026年4月22日(水)～5月6日(水) 9:30～16:30 ※武政氏による列品解説 4月25日(土),26日(日),29日(水),5月2日(土),3日(日) 14:00～(30分)
■会場	滋賀県立美術館 ギャラリー ▫ ご利用案内・アクセス 滋賀県立美術館
■入場料	無料

◆◆村田相談役よりメッセージ◆◆ 作品との出会い・想い♪

武政健夫氏に初めて会ったのは 2011 年 10 月 23 日、大丸百貨店（京都）で行われていた「武政健夫ガラス彫刻展」だった。新聞の広告を見て「ぜひこの作品を見たい」「もし可能なら手に入れたい」と思った。当日、本人に申し出たところ、「話をさせてもらい、自分で納得のいく方であれば、作品を持ってもらう」とのこと。美術作品を入手するのに、自分が面談されるのには驚いた。蝶や蘭の写真について話したことが功を奏したのか、幸いにも面談に合格し、私への作品制作に合意してもらえた。

こんな経緯で武政氏の作品を持つことができることになった。武政氏の作品は「エングレイヴィング」と呼ばれる技法で作られている。この技法は回転する銅の円盤にガラスを押し当てながら彫刻を施すもので古くからあるのだが、それが 19 世紀にオーストリアで大きく進化した。その伝統の技を受け継ぐ日本人作家が武政氏だ。それも世界を代表する巨匠であり、アメリカのコーニングに居を構え、グローバルに活躍している武政氏の作品を所持していることを誇らしく思う。

最初にいただいたのは 2013 年 5 月に我が家に持ってこられた作品で、花の蜜に群る蝶を彫り込んだものだ。武政氏は作品に題名をつけない。「余計な題名や解説で先入観を持たずに、自然のままを見て感じてもらう。それが僕の希望です」という理由からだ。確かに、彫刻の対象物は自然界のものであっても作者自身が表現したい新たな形に置き換えられている。ただ、私の受けた印象を書き留めておくのも間違いではないと思い、武政氏には無断で名前を付けた。

2013 年以來、毎年 2 つの作品が我が家に届けられるようになり、多数の作品が手元に集まったので、撮影することにした。撮影をして改めて作品を見ると、硬いイメージのあるガラスにやわらかい質感が表現されており、重い鉛ガラスに繊細な加工を施す作業を想像すると、作者のその高い技巧と忍耐強さに驚嘆させられる。また、彫刻された対象物はガラスのカット角や複数のガラスの組み合わせによる反射と透過の組み合わせにより、見る角度によって異なる構成が浮かび上がる計算された優れたデザインには驚かされる。さらに、自然を愛する作者の「遊び心」的な小さな彫り物を見つけると、心が和む。

是非、皆さんにもご覧いただけたら幸いです。

TAKEO

TAKEMASA

2026.4.22 Wed — 5.6 Wed

9:30~16:30 (入場は16時まで) ※最終日は13時閉場

休館日/4月27日(月)

滋賀県立美術館 ギャラリー

主催/武政健夫ガラス彫刻後援会(代表 村田製作所相談役 村田恒夫)

後援/京都新聞

協力/株式会社村田製作所、株式会社大洋工芸

入場無料

Glass Engraving Exhibition

— A Transparent Realm Unfolds, Where Light Intertwines with Shadow

9:30~16:30 (Last admission at 16:00) ※Closed at 13:00 on the last day

Museum closed on April 27 (Monday)

Shiga Museum of Art

Admission Fee : Free

光と影が刻む透明の世界

武政健夫
ガラス彫刻展



武政健夫ガラス彫刻展 光と影が刻む透明の世界

TAKEO TAKEMASA : Glass Engraving Exhibition — A Transparent Realm Unfolds, Where Light Intertwines with Shadow



たけまさ
武政
たけお
健夫
氏

高知県四万十町（窪川）出身・在住、1950年生まれ。数世紀に亘る伝統技法である、カパー ウィール グラス エングレイヴィングの現代の巨匠。

1969年イギリス滞在中にガラス工芸と出会う。1977年にカール・デュイスブルグ奨学金を得てドイツでヨーロッパガラス史を学ぶ。1978年オーストリア国立クラムザッハガラス学校に入学、1982年最優秀で卒業後、米ニューヨーク州のコーニング社、スチューベングラス部門にマスターエングレイバーとして入社。7年間の在職中に制作した作品の一部は、歴代アメリカ大統領の贈り物として各国の元首、ロイヤルファミリーに所蔵される。レーガン大統領が来日時、昭和天皇に贈られた「バタフライ」も氏の制作作品。1989年に独立した後は、アメリカでフリーランスのガラス彫刻家として活躍していたが、現在は高知県の自宅で制作を続けている。

Takeo Takemasa, born in 1950 in Kochi Prefecture, is a master of copper wheel glass engraving. He was captivated by glass art during a significant experience in England in 1969 and later studied European glass history in Germany with a Carl Duisburg Scholarship. After graduating from the Austrian National School of Glass in 1982, he worked as a master engraver at Corning Inc., creating pieces for world leaders, including "Butterfly," gifted to Emperor Showa during President Reagan's visit to Japan. Since becoming independent in 1989, he worked as a freelance glass engraver in the United States and is now continuing his work from his home in Kochi Prefecture.

武政健夫列品解説

4月25日(土)・26日(日)・29日(水)、5月2日(土)・3日(日)
14時～(30分)



～武政氏は作品に題名をつけない。「余計な題名や解説で先入観を持たずに、自然のままで見て感じてもらう。それが僕の希望です」という理由からだ。～

武政健夫ガラス彫刻後援会 代表 村田恒夫(村田製作所 相談役)



滋賀県立美術館 ギャラリー

〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1

- JR・バス JR琵琶湖線「瀬田駅」下車、「大学病院」行きのバスに乗車(約10分)
「県立図書館・美術館前」または「文化ゾーン前」下車。美術館までは徒歩約5分
 - 車 新名神高速「草津田上インター」から約5分、びわこ文化公園駐車場利用、美術館までは徒歩約5分
- [お問い合わせ] 武政健夫ガラス彫刻後援会 E-Mail: takemasaglass0422@gmail.com